

## より良いものを造るために、考え抜いた設計を提案

### 宇野勝哉 さん

日本港湾コンサルタント  
西日本事業本部 関西支店 技術一部 第一課 主幹

土木の業界ではよく「地図に残る仕事」という言い方をします。より良いものを造るために一生懸命考えて設計提案をし、「よし、これでいこう」と発注者に同意をいただいて紙に線を引いて形にしたものを、施工業者が現地で造って完成させる。何も無い場所に新しく構造物ができ、それが港の利便性や機能の向上に繋がっていくのを直に見ることができるのはこの業界の醍醐味です。

ただ、いま国内ではなかなか新しくものを造る機会がなくて。代わりに重要なテーマになっているのが、既設インフラの維持管理のための補修・改良。できるだけ費用を抑えながら、機能はより強化していこうという……。相反するようではありますが、その理想に向かって知恵を絞り、提案をする機会があるというところも、コンサルタントの仕事の魅力だと思っています。

周囲を海に囲まれた日本にとって、港は生活するためには欠かせない存在。物流の拠点であるのはもちろん、地震や津波などの防災面でも重要な役割を担っています。その港の整備において直接的な手助けができる。非常に重要な仕事で、やりがいがあります。

大学在学中は河川系の研究室にいて、港湾関係の仕事をするとは思っていませんでした。土木の世界で、いかに力学が重要かを思い知ったのは入社してから。とくに

港湾は、三大力学(構造力学、土質力学、水理力学)が常に絡んでくる世界ですから、学生のうちにしっかり勉強しておいたほうがいい。将来的にどのような場面で生きてくるのかイメージできれば興味が湧いて、勉強のモチベーションも上がると思います。

入社して11年、いろいろな分野の仕事をしてきましたが、年齢的にもまだまだチャレンジの時期。やはり新しいものを造りたいという思いはありますし、これまで携わったことのない海外事業などにも加わってみたい。海象条件や地盤条件がまったく異なる場所での経験が、視野を広げてくれると思うんです。チャンスを逃さず、さらに成長していきたいですね。

2007年入社。主に港湾・漁港・海岸保全施設等の設計業務(技術職)に従事。2012年には津波防護に関する研究のため、港湾空港技術研究所への社外派遣も経験。

